

Archon Classic 50 Combo 【サービスノート】

修理の際は、必ず購入されたPRS Official ディーラー経由で当社にご依頼ください。

・TUBES - 真空管

真空管は使用頻度や使用方法によって寿命が異なりますが、消耗品です。真空管はサウンドの要となるパーツであり、正しい使用方法をしていても、長期間使用することで動作不良を起こすことがあります。そのため、不具合が起きた際の対処法を事前に把握しておくといでしょう。

定期的な点検として、真空管のフィラメントがオレンジ色に発光しているか確認してください。オレンジ色以外の発光がある場合、真空管に異常が発生している可能性があります。特に、真空管に過剰な電流が流れると、フィラメントが鮮紅色に発光することがあり、これは内部で異常が起きていることを意味します。

また、以下のようなシチュエーションも考えられます。

1)フィラメントが光っていない。

2)真空管内部で小さな火花のような光が見える。

これらの状態は、真空管に深刻な問題があることを示しており、直ぐに使用を中止し、その原因を確認する必要があります。アンプから発するノイズに関しては、その原因が真空管であることが多く、プリ管はスピーカーキャビネットの振動を受けて、ノイズを発振する場合があります。プリ管に関しては、交換後、特に別途調整作業等は必要ありませんが、パワー管の場合は交換後、バイアス調整が必要となります。パワー管交換後、最初に内部が鮮紅色に点灯していないかの確認後、バイアス調整を行ってください。パワー管のバイアスは30mV (±5mV)で行ってください。2本のパワー管のバイアス差が5mVを超える場合、ノイズの発生や本来のサウンドにならない可能性があります。そのため、マッチングされているパワー管を購入・使用することをお勧めします。

注意：内部回路やパーツの損傷、アンプ本体の故障につながるため、真空管を抜いた状態では、絶対にアンプの電源を入れないでください。

注意：電源をオフにし、ケーブルを抜いた後でも、コンデンサー内部には電気が滞留している場合がありますので、十分ご注意ください。

製品に関するお問い合わせ

Paul Reed Smith Guitars カスタマーサービス

support@prsguitars.co.jp

2026年6月作成

ARCHON CLASSIC 50 COMBO USER'S MANUAL



PRSアンプの使用方法について

Archon Classic 50 Comboをお買い上げいただきありがとうございます。アンプを安全に使用するため、本書をよくお読みください。本書をよくお読みいただくことで、多くの機能を十分にご理解いただきアンプの性能を最大限に引き出すことにつながります。

1. スピーカーキャビネットがヘッド・アンプのスピーカー・アウトと高品質なスピーカー・ケーブルと適切なインピーダンスで接続されていることをご確認ください。楽器用シールド・ケーブルは使用しないでください。
2. 電源ケーブルがアースに繋がっているコンセントに接続されていることをご確認ください。
3. アンプの熱を逃がすため、少なくとも周囲15cm以内には物を置かず、スペースを確保してください。アンプを壁際に設置したり、他の機材と隙間なく設置しないようにしてください。また、他のアンプやストーブといった熱源の近くに設置しないでください。アンプの後方にはカーテンなど可燃性のものを置かないようにしてください。アンプの放熱を妨げるようなもので覆わないでください。また、ドリンクや液体をアンプ上部に置かないでください。
4. 本製品はスタンバイスイッチを搭載せず、電源スイッチのみでアンプの主電源が入り、演奏が可能な設計となっています。アンプの音をミュートしたい場合は、インプットジャックに接続されているケーブルを、カチッというクリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。
5. アンプの操作に慣れるまで、アンプをギターまたはペダルのアウトプットジャックと接続する際は、必ずボリュームとマスターコントロールを0にし、接続完了後に電源を入れてください。また、突然大きな音量が出ることを避けるために、ボリュームが0の状態から少しずつ上げて調整してください。



本製品は大音量での演奏が可能ですが、長時間の演奏は聴覚に影響を与える可能性がありますので、ご使用はあくまでご自身の責任の範囲内で行ってください。また、本製品に異常を感じた場合は、直ちに使用を中止し、購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。PRS Official ディーラー以外で修理や改造が行われた場合、今後のサービスの対象外となりますので、予めご了承ください。本製品を使用する際は、必ず100Vの電源をご使用ください。

Archon Classic 50 Combo フロントパネルコントロール

・INPUT - インプット

モノラル仕様のギター・ケーブルを使用して接続してください。

・CHANNEL SELECT - チャンネル セレクト

LEAD（リード）チャンネルとCLEAN(クリーン)チャンネルを選択する時にこのスイッチを使用します。

LEAD CHANNEL - リード チャンネル

・VOLUME CONTROL - ボリューム コントロール

プリアンプのボリューム・歪み・サチュレーションをこのノブで調節します。

・BRIGHT SWITCH - ブライト スイッチ

オンにするとTREBLEよりもさらに高音域がブーストされます。

・TREBLE CONTROL - トレブル コントロール

高音域のトーンをこのノブで調節します。低めに設定するとウォームなサウンドになり、高めに設定するとブライトなサウンドになります。

・MIDDLE CONTROL - ミドル コントロール

中音域のトーンをこのノブで調節します。低めに設定すると高音域と低音域が強調されたサウンドになり、高めに設定するとフラットなサウンドになります。

・BASS CONTROL - ベース コントロール

低音域のトーンをこのノブで調節します。低めに設定すると高音域と低音域がタイトなサウンドになり、高めに設定すると重心が低く、深みのあるサウンドになります。

・LEAD CHANNEL MASTER - リード チャンネル マスター

LEAD（リード）チャンネル全体の音量をこのノブで調節します。LEAD（リード）チャンネルの歪み具合を調節するVOLUME CONTROLと、CLEAN（クリーン）チャンネルとのボリュームバランスをとりながら、調節してください。

CLEAN CHANNEL - クリーン チャンネル

・VOLUME CONTROL - ボリューム コントロール

CLEAN（クリーン）チャンネルのゲインをこのノブで調節します。

・BRIGHT SWITCH - ブライト スイッチ

オンにするとTREBLEよりもさらに高音域がブーストされます。

・TREBLE, MIDDLE, and BASS CONTROL - トレブル ミドル ベース コントロール

LEAD（リード）チャンネルの各ノブをご参照ください。

・CLEAN CHANNEL MASTER - クリーン チャンネル マスター

CLEAN（クリーン）チャンネル全体の音量をこのノブで調節します。CLEAN（クリーン）チャンネルのVOLUME CONTROL（ボリューム コントロール）と、LEAD（リード）チャンネルとのボリュームバランスをとりながら、このノブで調節してください。

・PRESENCE CONTROL - プレセンス コントロール

TREBLEよりも高い音域をこのノブで調節します。このノブは両チャンネル（LEAD・CLEAN）共通となります。

・DEPTH CONTROL - デプス コントロール

BASSよりも低い音域をこのノブで調節します。このノブは両チャンネル（LEAD・CLEAN）共通となります。

・POWER ON / OFF SWITCH - パワー オン / オフ スイッチ

本製品はスタンバイスイッチ非搭載のアンプとなります。そのため、アンプの音をミュートする場合は、INPUT（インプット）ジャックに接続されているケーブルを、クリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。

Archon Classic 50 Combo リアパネルコントロール

・MAIN SOCKET - メイン ソケット

本製品を使用する際は、必ず付属の電源コードをご使用ください。また、本製品を置く場所を移動する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

・FUSES - ヒューズ

本製品には、リアパネル上から直ぐにアクセスできるヒューズと、プリント基板上に搭載されているヒューズがあります。ヒューズの交換を行う時は、必ずヒューズ本体に記載されている仕様と同じものを用意してください。異なるヒューズを使用した場合、製品に致命的な損傷が生じ、思わぬ事故につながる可能性があります。また、ヒューズを交換する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

・MAIN FUSES - メイン ヒューズ

メインヒューズ用のトレイは、主電源用のソケットモジュール内に組み込まれています。なお、ソケットトレイには、2つのヒューズをセットすることができ、ひとつはスペア用となります。ヒューズのタイプやスペックは、使用する国や地域によって異なりますので、詳しくは主電源用ソケットモジュール下に記載されている内容をご確認ください。

・B+ FUSES - B+ ヒューズ

B+ヒューズは、MAINS SOCKET（メインソケット）横のリアパネルからアクセスすることができますが、このヒューズ交換を行う際は、必ず事前に購入されたPRS Official ディーラーへ、交換するヒューズが正しいものか確認の上、行ってください。

・FILAMENT FUSES - フィラメント ヒューズ

フィラメントヒューズはプリント基板上にあるため、交換の際は、必ず購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。

・BIAS JACK AND POT - バイアス ジャック ポット

パワー管の消費電流をミリボルト単位で測定する端子です。ひとつの端子につき、1本のパワー管が連動しています。1mVと測定された場合、そのパワー管には1mAの電流が流れていることとなります。中央のバイアス端子がグラウンドになり、測定する際、テスターの黒いリード棒（COM端子に接続）をこの端子に差し込みます。バイアスジャックでの測定により、各パワー管が正常に動作しているかの確認することが出来ます。なお、バイアスノブで調節と真空管の交換に関しては、ご自身で行った場合、思わぬトラブルにつながる可能性がありますので、必ず購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。

・SPEAKER JACKS - スピーカー ジャック

スピーカーキャビネットと接続する際に使用します。4Ω(オーム)の平行接続×2、8Ω(オーム)の平行接続×2、16Ω(オーム)×1の計5つとなります。使用する前に、必ず本製品と使用するキャビネットの入力値とインピーダンス（Ω）を確認し、適切なものをご使用ください。異なるインピーダンスのジャックを同時に組み合わせ（16Ωのジャックと8Ωのジャック、8Ωのジャックと4Ωのジャックなど）、使用することは絶対におやめください。また、インピーダンスの異なるスピーカーを2台同時に使用することもおやめください。16Ωのスピーカーを2台平行（並行）接続する際は8Ωのジャックを2つ、8Ωのスピーカーを2台平行（並行）接続する際は、4Ωのジャックを2つ、それぞれご使用ください。正しいインピーダンスで接続されなかった場合、チューブソケットやパワー管の破損、及びアンプ本体の故障に繋がる可能性がありますので、正しい接続方法でご使用ください。なお、本モデルに搭載している内蔵スピーカーは16Ω仕様です。

・EFFECT LOOP - エフェクト ループ

本製品にはシリーズ（直列）接続のエフェクトループが搭載されています。SENDジャックをエフェクターのINPUTと接続し、エフェクターのOUTPUTをRETURNジャックに接続してください。また、ケーブルが拾うハムノイズを最小限に抑えるため、エフェクトループに使用するケーブルはある程度の長さがあるものを使用し、エフェクター本体をパワートランスや電源ケーブルからは距離を取ってご使用ください。

・FOOTSWITCH JACK - フットスイッチ ジャック

付属のフットスイッチ（FS1M）を接続する際に使用します。フットスイッチを使用することにより、チャンネルの切り替えが足元で行えるようになります。アンプの故障に繋がる恐れがあるため、付属のフットスイッチ以外は絶対に使用しないでください。また、フットスイッチが接続された場合、フロントパネル上のチャンネルセレクタースイッチは無効になります。